



松 明

(令和6年9月・10月号) 2024 vol.5



P2 防災訓練実施より

療育だより

「にじいろのさかな～福島病院にくる～」

療育指導室 保育士 武藤 美恵

今年の夏の行事は、リサイクルとSDGs を考えた内容になっています。2030年までにより良い世界の実現を目指すSDGs。私たち一人ひとりにもできることのひとつがリサイクル(3R → Reduce = へらす Reuse = 繰り返し使う Recycle = 資源として再利用)。これらから私たち一人ひとりが意識を変えてできることから始めなければならないと考えました。

そこで、日常生活や療育活動で出たプラスチックや紙類、春の行事などで使用したものを再利用しながら「に

じいろのさかな」の世界観を表現しようということになりました。

イメージしたものを形にするものの難しさがありましたが、療育指導室スタッフ一人ひとりがアイデアを出し合い、イメージしていた以上のものが出来上がり、「にじいろのさかな」の世界観を患者様に見て、触れて楽しんでいただくことが出来ました。

今回製作・使用したものの一部は、再び形を変え新たな形となっていく予定です。今後も患者様に喜んでいただけるよう、工夫しながら取り組み提供してまいります。

影絵 コーナー



楽しみながら 分別を学ぶ コーナー

本号のご案内

- 療育だより「にじいろのさかな～福島病院にくる～」… 1
- 看護部だより 療養介助員・看護助手 感染対策研修… 3
- 防災訓練実施 …………… 2
- 健康プラザ 放射線管理区域とは …………… 3
- 外来担当医表 …………… 4

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

いろいろな
クラゲコーナー



絵本の
コーナー



海の生きもの
コーナー



防災訓練実施

管理課 庶務係 池上 静男

去る、9月11日、第6病棟より火災（訓練）が発生しました。

今回の訓練は日中の出火を想定し、当日の日勤勤務想定者（患者さん想定の職員も含め）の参加により訓練を実施しました。夜間の訓練と違い人員は多いせいか、より迅速な避難誘導を行うことができた訓練となりました。

訓練では、火災が発生した場合の連絡通報、初期消火、避難誘導等の手順について確認できました。訓練終了後に、防火管理者からは、「消火器の場所、防火扉の位置、仮に避難するにはどっちに逃げればよいか」等、常日頃

仕事をしながらイメージをすることが大事であること、また避難本部長からは、病棟責任者が「次は何をする」とチェックしながら「声かけ」「情報共有」を迅速に進めていくことが大事との講評をいただきました。今回の反省点を次回の訓練に生かしていくこととします。

職員の皆さん、ご協力ありがとうございました。



9月4日、療養介助員・看護助手を対象に、感染対策の研修を行いました。今般医療機関では、療養介助員や看護助手は看護師の指示のもと様々な業務を行っており、病院で担う役割は大きく、今後が期待されています。今回の研修では、日ごろ取り組んでいる手洗い・手の消毒や、手袋やエプロンなどの个人防护具の着脱について復習と実践を行いました。手の消毒の演習では、指先の消毒が非常に大切になることや、消毒剤をまんべんなくすりこむために必要な量を確認しました。手に取る消毒剤の量・すりこむ順番には消毒の効果を高めるための意味があることを学びました。また个人防护具の演習では、手袋・マスク・エプロンの着脱を実際に行い、清潔な着用のしかたと汚れが広がらない脱ぎかたを学びました。使用前の防護具は清潔を保つため、手をきれいにしてから取り出すことや、外す際は一番汚れている手袋から外

すこと、手袋は手洗いの代わりにはならないことをみんな確認しました。今後も職員・患者両方に効果的な感染対策が行っていただけるよう、看護部全員で取り組んでいきたいと思います。



皆さんが病気や怪我をされて、X線写真などを撮影することがあるかと思いますが、その撮影室には、写真のような標識があるのをご存じでしょうか？この標識は、放射線管理区域であることを示し、管理区域とは医療法をはじめ複数の法令に基づいた放射線による障害を防止するために設けられた区域となっています。人が放射線の影響を避けるため、危険な場所へ立ち入らないよう明確に区分けした場所なのです。これは病院に限らず、放射線を扱う施設であれば必ず存在します。そのような場所には標識を掲示し、管理区域であることを周知する必要があります。

それでは、どの様な場所がこの放射線管理区域に該当するかといいますと、その一つに「外部放射線に係る線量については、実効線量が3カ月あたり1.3mSvを超える恐れのあるところ」と定義されており、他にもいくつかの条件があります。この条件の一つでも満たせば管理区域となります。また、放射線障害を防止するための注意事項も掲示しなければなりません。この管理区域に入る際には、法律などにより一時立入者として扱われ

ることがあり、守らなければならない注意点もあります。これらのように、この標識は放射線を扱う特別な区域を表して、指示あるまで入室を禁ずるなど制限を設けている区域になります。

この他にも様々な標識がありますので、機会がありましたら、改めてご覧頂ければと思います。

放射線
管理区域指示あるまで入室
しないで下さい。

院長

管理区域
(使用施設)許可なくして
立入りを禁ず

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和6年10月1日現在】

区	分	月	火	水	木	金
内科	1	安田千尋	安田千尋	安田千尋		
内科	2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内視鏡検査					安田千尋	
脳神経内科		伊藤英一	杉浦嘉泰	伊藤英一		杉浦嘉泰
小児科		福島医大	石井勉 氏家二郎	石井勉		河原田勉
専門外来 (発達小児クリニック)			石井勉 氏家二郎			河原田勉
専門外来 (小児神経外来)				石井希代子		
専門外来 (小児循環器外来)				桃井伸緒 (第2)		
小児専門外来		予防接種 (午後)				
整形外科		古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小児外科					清水裕史	
脳神経外科			福島医大 (第2)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。
- 外来担当医表は令和6年10月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)
診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

「残暑」という季語が1か月先延ばしに今後はなりそうな暑さですが、夜ともなれば虫たちのオーケストラが、そここで鳴り響くようにはなりました。コロナ共生の世の中、当院でも楽しく仕事が流れるよう皆頑張っています。読者さん達には、「たいまつ」の中にそのような雰囲気を感じていただければと思います。(編集委員 I・T)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>